

芸術科

I 芸術科の学習目標

音楽科の学習目標

- (1) 音楽Ⅰ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- (2) 音楽Ⅱ 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。

美術科の学習目標

- (1) 美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな心情を養う。
- (2) 自己を表現することの喜びを味わわせ、発想豊かな想像力を育てる。
- (3) 日本および海外の美術を鑑賞することにより、ゆとりある美的情操を養う。
- (4) 美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようにする。
- (5) 自主的・自発的な発想を奨励し、自ら考えたことが作品になる喜びを味わわせる。

書道科の学習目標

- (1) 基本的な書写能力を高める活動を通し、書に親しむ心を養い、感性を豊かにする。
- (2) 書を通して自己を表現することの喜びを味わわせ創造力を伸ばす。
- (3) 書の文化や伝統を理解し、生涯にわたり書に親しむ心を育てる。

II 芸術科の3年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容			発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
高校段階	4年	音楽Ⅰ(必修選択) 2単位 ・歌唱や三味線実技を通して創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・創作活動や表現活動に必要な音楽理論や楽典など音楽の基礎知識の定着を図る。	美術Ⅰ(必修選択) 2単位 ・美術の制作活動全てを体験できるようにバランスよく、絵画・デザイン・伝統文化表現について学習する。 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる	書道Ⅰ(必修選択) 2単位 ・漢字・仮名・漢字仮名交じり書の基本を学ぶ。 ・古典の臨書を通して、書の文化や伝統を理解し、書の美に親しむ力を育てる。 ・臨書や鑑賞を通して感じ取った美的感性を自己の創作表現に活かす。	・入学式、卒業式 ・合唱コンクール
	5年	(芸術科科目の設定なし)			
	6年	音楽Ⅱ(自由選択) 2単位 ・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽大学に進学を希望する生徒に向け、志望大学・志望学科・受験方法に対応した実技・演習を行う。	美術Ⅱ(自由選択) 2単位 ・それまでの制作活動をふまえ、さらに個性豊かな美術の表現能力を高める。 ・進路を美術系大学(もしくは実技試験を有する大学)に絞っている生徒に対し、自ら課題を設定し、志望大学の入試傾向に適した対策を教員と共に取り組む。		・志望校のレベルに応じた実技や講義を行う。

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 芸術科
 科目名 音楽Ⅰ
 対象 4学年選択者

I 学習到達目標

- 1 演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら表現活動を工夫する。
- 2 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、その他の芸術との関わり考えながら演奏したり鑑賞したりする。
- 3 音楽理論や楽典などの音楽的知識を深め、創作活動や表現活動に生かす。

II 授業の進め方（授業形態等）

歌唱分野（独唱・混声四部合唱・アカペラ等）
 器楽分野（三味線実技・鍵盤楽器等）
 鑑賞分野、創作分野、理論分野

III 教科書・補助教材

教科書 「MOUSA1」教育芸術社
 補助教材 「やさしく学べる三味線入門」全音楽譜出版社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4 5		「Ave Maria」読譜、呼吸法、発声法(P10～11) 「日本の歌曲・諸外国語の歌曲」 楽典1 (P150～155) 三味線実技	MOUSA1 優しく学べる三味線入門	8 4 4
	6 7		「リズムアンサンブル」 「古典派の作品を知る1」 楽典2 (P150～155) 三味線実技	MOUSA1 優しく学べる三味線入門	4 4 4 4
	夏休み 宿 題		課題		
二 学 期	9 10 11 12		「混声四部合唱」 「無伴奏合唱」 「古典派の作品を知る2」 楽典3 (P150～155) 三味線実技	MOUSA1 優しく学べる三味線入門	16 2 2 10
	冬休み 宿 題				
	1 2 3		「合唱コンクール発表に向けた合唱練習」 楽典まとめ(P150～155)	合唱コンクール本番にて成果発表	14 2
				計 78 (2単位)	
評 価	実技テストや単元テストに平常点（提出物・授業中の活動状況）を加味したものを評価の対象とし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別に5段階で評価をする。				

教科名 芸術科
 科目名 **美術 I**
 対象 4 学年選択者

I 学習到達目標

- 1 美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな情操を養う。
- 2 美的体験を通し豊かな感性を養い、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 4月から7月はパッケージデザインを中心にデザインの学習を行い、商品を生み出す楽しさと難しさを味わう。
- 2 9月から12月は着色デッサンを行い、平面での三次元表現の基礎を学習する。
- 3 1月から3月は小学校からの美術・図工教育を振り返り、伝統的な表現手段である版画で作品を仕上げる。

III 教科書・補助教材

教科書 高校生の美術1（日本文教出版）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4		○オリエンテーション ○パッケージデザイン ①コンセプトについて ②視覚伝達デザインの基礎 ・タイポグラフィ(ロゴデザイン) ・作図から下描き ・着色 ・組み立て	2 24	
	5				
	6				
7					
	夏休み 宿 題				
二 学 期	9		○着色デッサン ①パネルに水張り ②エスキース(構想)について ③構図について ④明暗も付け方について ⑤配色について	24～28	
	10				
	11				
	12		○版画制作 ※3学期も継続 ・制作のための下準備	4～6	
	冬休み 宿 題				
三 学 期	1		○美術/図工の授業を振り返って ※2学期より継続 ①下描き ②版作り ③刷り	14～18	
	2				
	3				
				計 78 (2単位)	
評 価	・ 考査を実施しないため、「授業に臨む姿勢」「構想・アイディア」(プリント類)「作品」で評価を行う。 なお毎年提出物等で評価が大きく分かれることが多いため、注意してもらいたい。				

教科名 芸術科
 科目名 書道 I
 対象 4 学年選択者

I 学習到達目標

1 書に親しむ心を養い、感性を豊かにし、書写能力を高めるとともに、書の表現と鑑賞の能力を伸ばす。
--

II 授業の進め方（授業形態等）

1 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じり書の学習
2 臨書を中心として創作作品も制作
3 全体指導と個別添削指導による授業

III 教科書・補助教材

教科書 新編 書道 I（教育出版）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題				
	4		書写から書道へ 表紙 用具の種類とその扱い方についてP. 2～4	2	
	5		基本的筆使いP. 12～13 生活の中の書P. 6 様々な漢字の書P. 14～17 楷書の学習P. 22～39 九成宮醴泉銘「楷法の極則」 P. 18～19 22	2 2 4	
	6		孔子廟堂碑「明るく穏やかな用筆」 P. 20～21 23 雁塔聖教序「軽快」 顔氏家廟碑「重厚」 P. 26 27 29 牛橛造像記「方勢」 鄭義下碑「円勢」 P. 33	4 4 4	
	7		漢字の書の創作 P. 70～75	4	
	夏休み 宿 題				
	二 学 期	9		行書の学習 P. 34～35 蘭亭序「用筆、字形ともに優れた完成された姿」 P. 36～37 40～44 風信帖「筆力に満ちた変化に富む書風」 P. 51～53 三筆、三跡 P. 54～55 篆書の学習 泰山刻石「小篆の典型」 P. 56～58	4 4 4 4 2
10					
11			隸書の学習 曹全碑「破磔、横長の字形」 P. 65～67	4	
12			草書の学習 書譜「躍動感のある芸術的表現」 P. 68～69 仮名の学習 P. 82～106 仮名の成立P. 84 基本P. 86～87 平仮名 P. 88～89 変体仮名P. 90～91 書式の教室P. 124～127	4 4 2 2	
冬休み 宿 題					
三 学 期	1		連綿 P. 92～93 蓬萊切「端正な字形、のびやかな線 質」 P. 94～95	4	
	2		高野切第三種「明るいわかり易い字形」 P. 96～97 俳句の創作 P. 100～102	4 2	
	3		漢字仮名交じりの書 P. 108～123 自分の表現を旨として①② P. 114～119 名筆に学ぶ表現の工夫①② P. 113 感動や思い表現しよう P. 110～112	2 2 2 2	
				計 78 (2単位)	
評 価		・毎時間ごとに提出作品とテスト作品で評価 ・黒板や水白板使用の全体指導でアウトラインをつかみ、個別指導（添削指導）に積極的に参加して細部まで技法を会得出来たか、文房四宝の忘れ物がないか等の授業態度も評価			

教科名 芸術科
 科目名 音楽ⅠまたはⅡ（自由選択）
 対象 6学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 音楽理論や楽典などの音楽的知識を深める。
- 2 音楽的な技術を習得し、音楽を愛好する心情を育てる。
- 3 音楽大学・音楽学部・幼児教育関係に進学を希望する生徒に対して、志望大学・志望学科受験方法に対応した授業を行い、進路実現をはかる。

II 授業の進め方（授業形態等）

講義、実技

III 教科書・補助教材

教科書 「MOUSA 2」教育芸術社
 補助教材 「楽典－理論と実習」音楽之友社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、個人面談 ・音楽理論Ⅰ-①② (基礎課題) ・音楽理論Ⅱ-①② (基礎・応用課題) 		2 26	
	5					
	6					
	7					
	夏休み宿題					
二 学 期	9		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論Ⅰ-③④ (過去問題演習) ・音楽理論Ⅱ-③④ (過去問題演習) 		30	
	10					
	11					
	12					
	冬休み宿題					
三 学 期	1		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論Ⅰ-⑤ (過去問題演習) ・音楽理論Ⅱ-⑤ (過去問題演習) 		20	
	2					
	3					
					計 78 (2単位)	
評 価	各学期単元テストや授業中の取り組み、出席状況を評価の対象とする。					

教科名 芸術科
 科目名 美術ⅠまたはⅡ（自由選択）
 対象 6学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 美術教育における様々な制作体験を通して、豊かな情操を養う。
- 2 自ら課題を設定し自由に制作を行い、自己の表現力を伸ばす。
- 3 進学希望先の受験に沿った課題制作を行い、表現能力の向上をめざす

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 4月から7月は、自分の作品が他の人の目に触れることを意識して文化祭に向けて制作を行う。
- 2 9月から1月は、高校最後の卒業作品として完成度の高い自己表現を行う。
- 3 年間通し、美術系大学もしくは実技を課す大学受験の対策を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 高校生の美術1（日本文教出版）
 高校美術2（日本文教出版）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト			
	4		・オリエンテーション ・自主制作課題Ⅰ-① （基礎課題） （過去問題制作）	2 26	
	5		・自主制作課題Ⅱ-① （基礎・応用課題） （過去問題制作）		
	6				
	7				
夏休み 宿 題					
二 学 期	9		・自主制作課題Ⅰ-① （基礎課題） （過去問題制作）	4	
	10		・自主制作課題Ⅱ-① （基礎・応用課題） （過去問題制作）		
	11		・自主制作課題Ⅰ-② （過去問題制作）	26	
	12		・自主制作課題Ⅱ-② （過去問題制作）		
冬休み 宿 題					
三 学 期	1		・自主制作課題Ⅰ-② （過去問題制作）	20	
	2		・自主制作課題Ⅱ-② （過去問題制作）		
	3		・一年間を振り返り、後輩達へ作品等を残す		
				計 78 (2単位)	
評 価	・各自設定した課題の制作状況及び作品の完成度				